

令和4年度 文部科学省委託
学校安全総合支援事業

「地域連携安全・安心推進事業」

— 実践事例集 —



モデル校：にかほ市立象潟小学校
にかほ市立象潟中学校

秋田県教育委員会

はじめに

日本海中部地震から40年が経過しようとしており、保護者や、教職員の多くが震災を経験していない世代になってきております。また、東日本大震災からも10年以上が経過し、児童生徒も震災の記憶や体験が無くなっている中、今後発生が懸念されている大規模災害に備え、震災の教訓を未来へ生かすことの必要性を再認識しております。

昨今では、気候変動の影響を受け、従来の想定を超える台風や豪雨による自然災害が毎年のように発生し、全国各地に甚大な被害をもたらしております。昨年9月に発生した台風14号は、大分県佐伯市で最大瞬間風速50.4メートルを観測するなど、九州から中国地方及び近畿地方にかけて多くの地点で最大瞬間風速の観測史上1位を更新しましたし、東海地方周辺に豪雨をもたらした台風15号では、静岡県を中心に土砂災害や浸水害を発生させ甚大な被害を出しております。また、県内においても8月に線状降水帯による大雨の影響により、河川の氾濫や住宅浸水などがおこり、県内初の「緊急安全確保」が出された地域もありました。

さらに、激甚化・頻発化する自然災害のみならず、昨年10月には金属バットや竹刀を持った不審者が中学校に侵入する事件が立て続けに起こっております。幸運にも大事には至りませんでした。不審者に係る犯罪や、児童生徒等が被害に遭う痛ましい交通事故、また、スマートフォンやSNSの利用を巡るトラブルなどの現代的課題にも対応していかなければならず、児童生徒等の安全確保が学校だけでは完結できないことを改めて実感しております。

このような状況に対応すべく、推進地域とモデル校を定めて、学校安全の3領域において、学校・家庭・地域が連携しながら学校安全を推進していくことを目的とした「地域連携安全・安心推進事業」を立ち上げてから6年目を迎えました。

今年度は、にかほ市立象潟小学校・象潟中学校をモデル校とし、コロナ禍においても、地域住民や関係機関等と連携を図りながら、地域と一体となった効果的な取組を実践していただきました。県教育委員会といたしましても、今後、その成果を様々な機会に取り上げ全県に波及させるとともに、児童生徒等がいかなる状況下でも自らの命を守り抜き、安全で安心な社会を実現させるための知恵と行動力を身に付けることができるよう、学校安全に関する取組の更なる強化・充実に取り組んでまいります。

最後になりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、1年間児童生徒と共に活動し御支援くださいました中核教員をはじめ両校の教職員の皆様、PTAや地域の関係機関の皆様、にかほ市教育委員会の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

令和5年2月

秋田県教育庁保健体育課
課長 寺田 潤

目次

はじめに

I	事業の背景	1
II	推進委員会	2
III	実践委員会の開催	6
IV	モデル校の取組	
	象潟小学校	7
	象潟中学校	11
	小・中連携	14
	保護者との連携	16
	情報発信	18
	教職員研修	20
V	中核教員の資質向上	22
VI	中核教員による情報発信	24

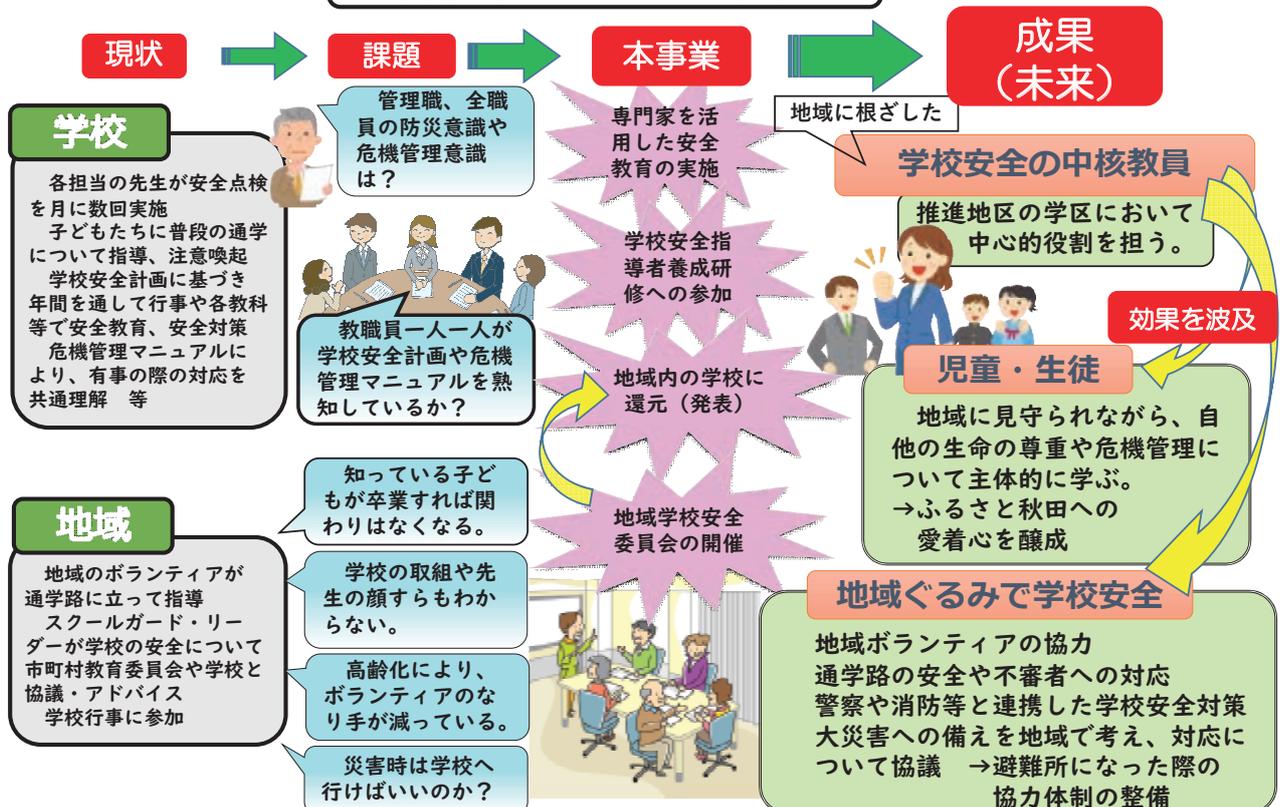
「地域連携安全・安心推進事業」



秋田県教育委員会

「地域連携安全・安心推進事業」

期待される効果



推進委員会の開催

県教育委員会は、推進地域において、学校、地域、関係機関等と連携・協働しながら、事業が円滑に実施できるよう、モデル地域を所管するにかほ市教育委員会、県総務部総合防災課及び学識経験者等で構成される推進委員会を開催した。

1 第1回推進委員会

(1) 日 時

令和4年6月24日(金) 午後1時30分から3時まで

(2) 場 所

秋田県庁第二庁舎 災害医療対策室

(3) 出席者

秋田大学防災減災総合研究センター 教授	水田 敏彦 氏
にかほ市教育委員会教育研究所 指導主事	増田 良 氏
県総務部総合防災課危機管理・防災支援班 副主幹	長谷川知之 氏
県教育庁義務教育課指導班 指導主事	佐藤 央章 氏
県教育庁生涯学習課社会教育・読書推進班 社会教育主事	渡辺 智一 氏
県教育庁中央教育事務所由利出張所管理・指導班 指導主事	木内 衛 氏
県教育庁保健体育課 課長	寺田 潤

(4) 学校安全教育プログラムと地域連携について質疑

役 職・氏 名	内 容
秋田大学 防災減災総合研究 センター 教授 水田 敏彦 氏	一昨年、昨年と「防災小説」を作成している。「防災小説」は災害のシナリオに関するものであるが、今年5月下旬に東京都の防災会議において「首都直下地震」の災害想定を新しく設定し、災害のシナリオを公表したことが、マスコミにも多数取り上げられた。しかし、それよりも早い時期から「防災小説」に取り組むなど、先進的な取組が行われている。今年度もよろしくお願ひしたい。
県教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進班 社会教育主事 渡辺 智一 氏	地域との連携ということで、実践委員会の中に公民館が含まれているのか確認したい。学校運営協議会が設置されているので地域とともにある学校づくりが進んでいると思う。にかほ市は「学校・家庭・地域連携総合推進事業」に取り組んでいるので、連携の中に公民館が位置付けられているか確認したい。
にかほ市教育委員会 教育研究所 指導主事 増田 良 氏	公民館との連携は視点の中になかった。 小学校、中学校の関係者に伝えたい。
県教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進班 社会教育主事 渡辺 智一 氏	にかほ市の生涯学習担当と連携を取らせていただいている。にかほ市、由利本荘市は学校と社会教育が非常に連携が深い地区である。地域との連携を考えたときに公民館を加えることで、連携がもっと深まると思うので検討をお願ひしたい。

(5) 事業に対する意見等

役 職・氏 名	内 容
県総務部総合防災課 危機管理・防災支援班 副主幹 長谷川 知之 氏	<p>学校、地域、行政の3者の連携を図ってほしい。具体的には、避難訓練の計画を立てる際にも、地域の自主防災組織、消防団、市の防災担当部局と連携して作成するなどである。日頃から3者の関係を良好にすることで、災害時に訓練の効果が発揮されると思う。学校行事、PTA活動などを活用し、日々の関係づくりを積極的に行ってほしい。</p> <p>児童生徒には、本事業を通して自らの安全を守る能力を身に付けてほしいと思っている。</p>
県教育庁義務教育課 指導班 指導主事 佐藤 央章 氏	<p>地域の実態に応じ、交通安全、生活安全、災害安全の各領域がバランス良く実施される内容になっている。また、地域住民、関係機関、外部の専門家との連携も図られる計画になっている。事業の概要にもPDCAサイクルを活用することが記載されているが、大きなポイントになると感じている。避難訓練等の一つの事業における短いスパンのPDCAもあれば、事業全体を通じたPDCAもある。何を目的にし、何のために、どのようにPDCAを活用していくのか明確にすることで、事業の充実に繋がると感じている。</p>
県教育庁中央教育事務所 由利出張所 管理・指導班 指導主事 木内 衛 氏	<p>コロナ禍により、地域と連携した防災訓練の実施は難しかったが、逆に新たな工夫がされた訓練の実施も見られるようになってきている。この機会に、新たな工夫を取り入れた地域と連携した防災訓練の実施を期待したい。</p> <p>また、象潟地区は日常的に見守り活動が行われ、交通安全、生活安全の指導に地域の方と連携がなされているが、災害安全は、事前に対策が必要になってくる分野でもあるので、連携を図る良い機会になると思う。新たな取り組みを期待するとともに、好事例を由利管内、中央管内に波及させていく役割を果たしたい。</p>
県教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進班 社会教育主事 渡辺 智一 氏	<p>学校現場にいるときは、どのように地域を巻き込めば良いのか分からなかったが、社会教育の立場になり、「学校・家庭・地域連携総合推進事業」があることを知った。にかほ市をはじめ、県内の多くの市町村がエントリーして取り組んでいる。</p> <p>地域と連携する組織として「学校運営協議会」が学校内にあるが、地域と学校をつなぐ仕組みとして「地域学校協働本部」というものもある。にかほ市にもあるので、既存の仕組みを活用して地域連携を図っていくことを強く勧めたい。</p> <p>計画されている交通安全についても、「学校・家庭・地域連携総合推進事業」の中にボランティアとして活動している方もいる。自助能力のある児童生徒を育てることは、つまり、自助能力のある地域住民を育てることにつながると思うが、既存の仕組みを活用していくことで、学校側だけが難儀しなくても良い仕組みが作れると考えている。</p>
県教育庁保健体育課 課長 寺田 潤	<p>防災ウォーキングマップづくりでGIGAスクール構想の話題が出ていたが、昨年度、能代東中学校が取り組んだ「防災小説」において、オンラインを活用した他県の中学生との交流が行われた。それぞれの地域の実態に即した形で小説を書き、発表し合うことでお互いに刺激を受けたと思う。また、能代東中学校の生徒が第五小学校の児童の前で発表する機会もあり、小・中学校の連携も見られた。</p> <p>コロナ禍の影響もあり、ICT環境が大幅に整備され、オンラインでどこでも繋がるのが可能となった。</p> <p>昨年度は東日本大震災から10年という節目であったこともあり、総合教育会議で防災教育が取り上げられた。その際、教育委員の方から、被災された方の生の声を聴かせてほしいという要望を受けている。オンラインを活用し、被災地の児童生徒、地域住民の方と交流を図る機会を設けてほしい。</p>

<p>県教育庁保健体育課 主任指導主事 菊池 勇拓</p>	<p>公民館についてであるが、今年度文部科学省から公表された「第3次学校安全の推進に関する計画」の「学校安全を推進するための方策」「3. 学校における安全に関する教育の充実」の中に、「防災教育の充実」が記されている。文部科学省も「防災教育」が課題であると考えている。本文に、「防災教育についても、地域の防災リーダー等の資格者やボランティアなどの人材、公民館における防災講座なども教育資源として活用することが重要である」とあり、生涯学習との連携が非常に重要であると考えられる。公民館と連携を図ることで、国が目指す方向性とも合致すると思われる。</p>
<p>秋田大学 防災減災総合研究 センター 教授 水田 敏彦 氏</p>	<p>今年度のモデル地域となる象潟地区は、災害の把握が非常に難しい地域で、風水害や地震の他に鳥海山の噴火もにかほ市では想定している。そのため、非常に防災意識が高い地域という認識がある。</p> <p>事業について何点か気付いた点を述べさせていただきたい。</p> <p>防災マップづくりについては、不審者等の防犯、交通安全、風水害、津波、避難所の場所、海拔等も含めた「安全・安心マップ」という形での作成が良いのではないかとと思われる。</p> <p>「自助」の能力を高めたいという話があったが、子どもたちが災害にあったとき、どのような状態になるかをできるだけ正確に想像できることがポイントになってくる。発達の段階に応じて、地震の揺れや津波の高さ、浸水の深さなど、災害について丁寧に具体的に指導することで「自助」に結び付いていくと考えられる。</p> <p>活動に参画される斉藤亜希さんは、にかほ市の防災のリーダー的な存在に成り得る人である。高校時代から防災について積極的に活動されてきた方であり、避難所開設訓練等も経験されていると思うので助言がいただけるのではないかと。</p> <p>また、県スポーツ振興課の細井先生は、高校の現場にいるときに、地域と連携した避難所開設訓練を夏と冬の年2回、数年にわたり実践した貴重な経験がある方なので、助言をいただけるのではないかと。</p> <p>最後に、象潟地区ということで、1804年に起こった「象潟地震」について学んでほしい。何度も学ぶ機会があると思うが、この地震によって今の地形が作られているので、郷土資料館で「象潟地震」について、今一度学んでほしいと思っている。</p>

(6) その他

役 職・氏 名	内 容
<p>県教育庁生涯学習課 社会教育・読書推進班 社会教育主事 渡辺 智一 氏</p>	<p>情報提供であるが、県生涯学習センターで「防災講座」を実施している。日本赤十字秋田短期大学の及川先生が講師をされているので、講座を活用したり、直接及川先生に依頼する方法もあると思うので、検討してほしい。</p>
<p>秋田大学 防災減災総合研究 センター 教授 水田 敏彦 氏</p>	<p>斉藤亜希さんは、県外の東日本大震災に関係がある方々とネットワークがあり、「釜石の奇跡」に関わった、菊池のどかさんとのつながりもあると思われる。もしかすると、県外の学校との関わりもあるかもしれないので、交流を図る上で道が開けるのではないだろうか。</p>

推進委員会の様子



※第2回推進委員会は2月14日に開催されているが、実践事例集印刷原稿入稿日程の関係で掲載していない。



実践委員会の開催

令和4年8月2日(火) 第1回実践委員会

学校運営協議会委員、由利本荘警察署にかほ幹部交番、にかほ市防災危機管理班等の関係者の方々に、象潟小学校と象潟中学校が計画している学校安全に関わる取組について説明するとともに、それぞれが専門的な立場からの視点を交えながら意見交換を行った。

令和4年11月29日(火) 第2回実践委員会

中核教員が自校の取組について報告するとともに、参加した委員から今までの実践内容と今後の取組について御意見をいただいた。

令和5年1月31日(火) 第3回実践委員会

中核教員が今年度の取組について振り返るとともに、参加した委員から実践内容と来年度の取組について御意見をいただいた。

会議の様子



モデル校の取組 一にかほ市立象潟小学校一

◆交通安全

令和4年6月17日(金)

自転車ルール教室(3年生)

交通事故に遭わないように自転車のルール、乗り方について学習した。

警察署員による自転車運転のルール説明



令和4年6月23日(木)

自転車教室(4年生)

学校近くにある児童公園で行うことで、実際の標識を利用したルールの確認や乗車マナーを学習することができた。

ルールを確認しながら乗車する児童



◆生活安全

令和4年9月5日(月)・6日(火)

着衣水泳

にかほ市消防本部の協力を得て、水の事故に遭った時に慌てず、救助されるまで呼吸を確保するための方法を学習した。

熱心に消防隊員の説明を聴く児童



着衣水泳を体験する児童



◆ 災害安全

令和4年5月25日(水)

地震・火災想定訓練

地震により火災が発生した場合の避難経路と避難場所を確認することができた。

煙の中での避難行動と消火活動を経験



令和4年7月14日(木)

防災集会(1・2年生)

地震発生時の安全確保の行動について確認することができた。

ダンゴムシのポーズ(避難姿勢)を確認



令和4年9月30日(金)

地震体験学習

地震体験車を活用し実際に地震の揺れを体験することで、地震発生時の安全確保の大切さを確認することができた。

地震体験



令和4年10月11日(火) 地震・津波想定訓練

地震により津波が発生した場合の避難経路と避難場所を確認することができた。

安全確保



最上階へ速やかに避難



令和5年1月20日(金) 集団下校訓練（暴風雪想定）

教職員の引率と地域の方の見守りで安全を確保しながら、暴風雪を想定した集団下校訓練を行った。

下校手段、通学路ごとに分けられた
集合場所（体育館）



集合した児童



集団下校訓練



モデル校の取組 一にかほ市立象潟中学校一

◆生活安全

令和4年6月7日(火)

不審者対応避難訓練

不審者侵入などの緊急時における生徒の安全確保の方法と、学校内の組織体制を確認することができた。

職員による不審者対応訓練



警察署員による講評



令和4年11月10日(木)

救急救命講習会

生命を守るために取るべき行動を確認することができた。

消防隊員による講話



消防隊員による説明



胸骨圧迫を体験



AEDを体験



◆ 災害安全

令和4年9月1日(木)

防災を学ぶ日(1・2年生)

防災学習館でシミュレーション装置を活用し、地震・煙・初期消火など、防災に関する知識・技術・行動力を高める体験ができた。また、1年生は旧仁賀保町内の避難場所や避難経路を確認し、2年生は郷土資料館で象潟地震について学習するなどして、ふるさとについて再確認することができた。

初期消火を体験



煙中体験



旧仁賀保町内を探索(1年生)



郷土資料館でのふるさと学習(2年生)



令和4年10月31日(月) 火災想定避難訓練

火災が発生した際の避難経路、避難場所の確認と煙中体験を行った。

駐車場に避難



消防隊員からの説明



煙中体験



モデル校の取組 一 小・中連携一

令和4年10月17日(月)

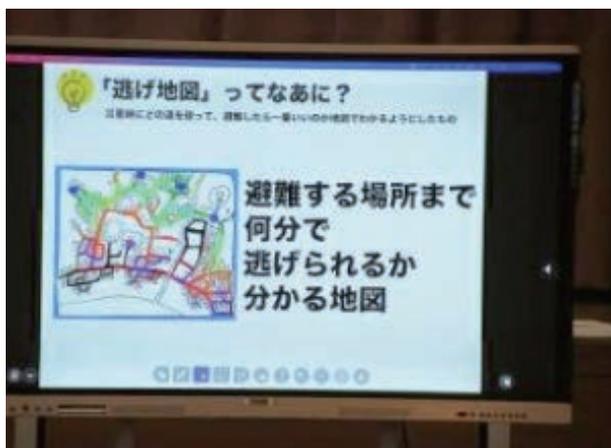
逃げ地図づくり

○逃げ地図とは？

避難場所までの避難経路と、避難にかかる時間を示すものです。高齢者が10%の勾配の坂道を上る速さ(分速43m)で移動する距離を、3分ごとに色を分けて表し、設定した避難場所にたどり着く時間を記します。どこを通れば避難場所に最短時間でたどり着くか一目で分かるものです。

防災士の齊藤 亜希 氏を招き、象潟小学校、象潟中学校合同での逃げ地図づくりを体験した。

逃げ地図とは



熱心に齊藤氏の説明を聴く児童生徒



児童生徒が協力しての逃げ地図づくり



児童生徒が協力しての逃げ地図づくり



逃げ地図づくりを通して気付いたことを発表



作成した逃げ地図 (逃げ地図は随時更新)



モデル校の取組 ー保護者との連携ー

◆象潟小学校

令和4年10月25日(火)

引渡し訓練(地震想定)

感染症流行下の直下型地震を想定した避難訓練のあと、全校児童を対象とした引渡し訓練を行った。保護者からは「引渡しの方法が理解できた」「必要な訓練である」という意見が多数寄せられた。

間隔を空けて設置した受付



児童の引渡し



引渡した児童を確認する名簿



◆象潟中学校

令和4年10月5日(水)

P T A 講演会「台風・大雨から身を守る」

秋田地方気象台 土砂災害気象官 戸堀 博之 氏を講師に招き、保護者、教職員、生徒を対象に講演会を開催した。秋田県内やにかほ市の事例もあり、とても参考になる内容だった。

講師の戸堀氏



講演を聴く生徒



講演を聴く保護者



質問に挙手する生徒



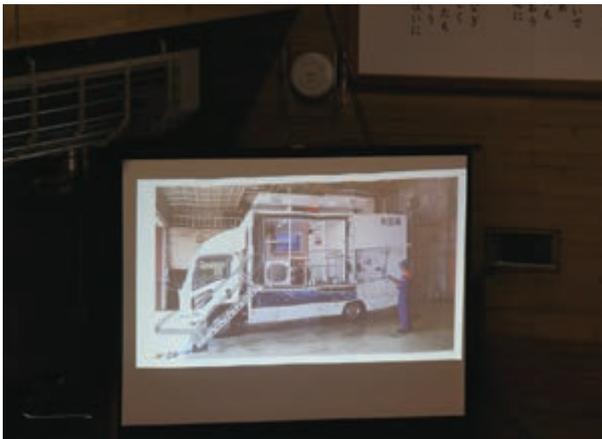
◆象潟小学校

令和4年11月3日(木)

学習発表会

今年学習した防災教育の内容を発表し、保護者や地域の方と情報共有することができた。

学習内容の発表



◆象潟中学校

令和4年10月1日(土)
学校祭

今年学習した防災教育の内容を発表し、保護者や地域の方と情報共有することができた。

学習内容の発表



令和4年10月11日(火)

鹿児島県南さつま市立大笠中学校との交流会

防災教育や平和教育についてオンラインで発表し合い、交流を深めることができた。

交流会の様子



モデル校の取組 一教職員研修一

◆象潟小学校・象潟中学校合同

令和4年8月23日(火)

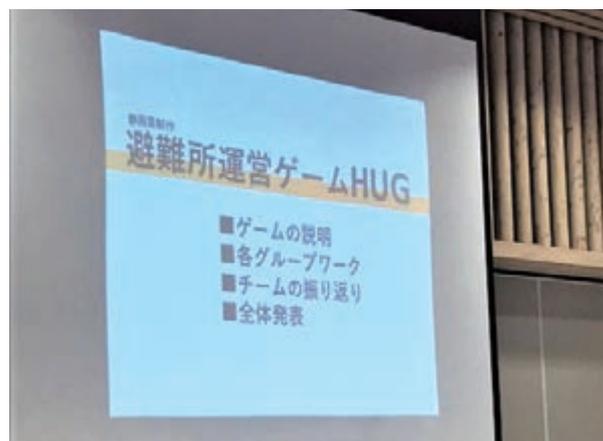
防災についての講演・HUG(避難所運営ゲーム)

防災士の齊藤 亜希 氏を招き、象潟小学校・象潟中学校の教職員が合同での研修会を実施した。

齊藤氏の講演



HUGの説明



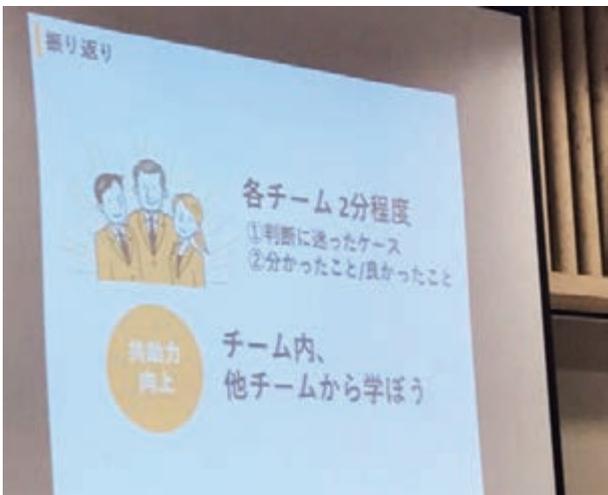
グループでの話し合い



グループ活動の成果



振り返り



他のグループからの学び



気付いた点を発表



中核教員の資質向上

最新の情報を踏まえながら、実践的な研修を積み、学校安全教育の資質向上を図った。

1. 令和4年度学校安全指導者養成研修(オンライン)

- ◇期 日：令和4年8月1日(月) から令和4年8月31日(水) までの期間中
任意の3日間を選択して受講
- ◇主 催：独立行政法人教職員支援機構
- ◇共 催：文部科学省

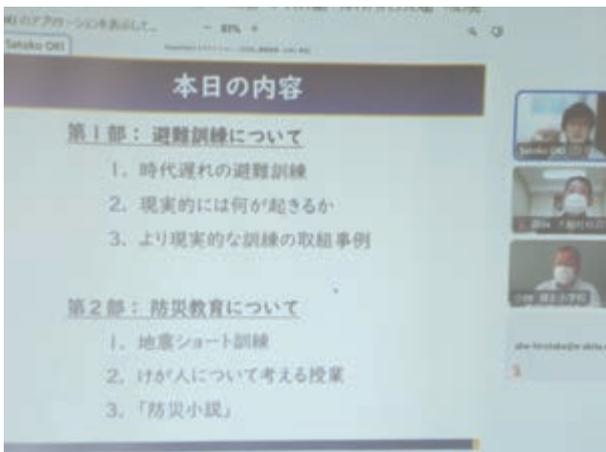
学校安全の3領域に関して必要な知識を習得するとともに、研修会等において、具体的な実践例を紹介しながら指導助言等を行うことができる中核教員としての資質・能力を育成することができた。

2. 令和4年度災害安全指導者研修会(オンライン)

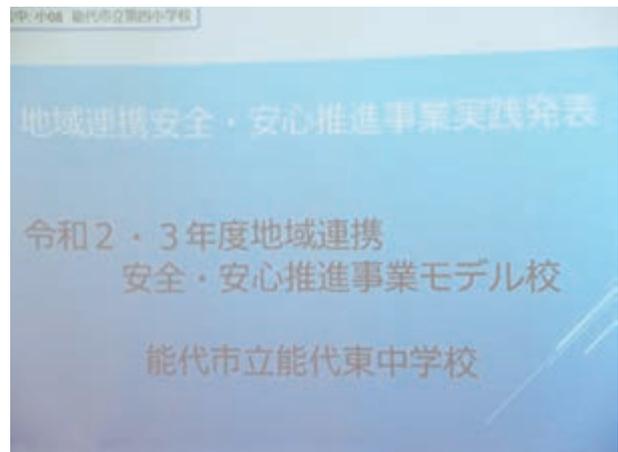
- ◇期 日：令和4年9月6日(火)
- ◇主 催：文部科学省・秋田県教育委員会

慶應義塾大学 准教授 大木 聖子 氏から地震ショート訓練や防災小説など実践的な防災教育について学ぶことができた。また、能代市で実施した地域連携安全・安心推進事業の実践事例を聴き、今後の防災教育の取組に生かすことができる情報を得ることができた。

慶應義塾大学 大木 聖子 氏の講演



実践発表



3. 「学校安全計画」「危機管理マニュアル」研修

- ◇期 日：令和5年1月12日(木)
- ◇会 場：象潟中学校 会議室
- ◇主 催：にかほ市教育委員会

学校安全計画・危機管理マニュアルに記載すべき内容を確認することができた。また、中学校と小学校の危機管理マニュアルをすり合わせたことで、今後統一して記載する内容等を確認することができた。

研修の様子



4. 令和4年度「学校安全指導者研修会」

- ◇期 日：令和5年1月26日(木)
- ◇会 場：宮城県石巻市
- ◇主 催：文部科学省

震災遺構（旧門脇小学校、旧大川小学校）を見学すると同時に、当時の担当教諭、震災遺族の話を聴き、学校安全への意識を高めることができた。また、講演やワークショップでの各県担当者との意見交換を通じ、今後の研修会等において、具体的な実践例を紹介しながら指導助言等を行うことができる中核教員としての資質・能力を育成することができた。

旧門脇小学校



旧大川小学校



中核教員による情報発信

令和4年12月5日(月)

学校防災教育研修会

独立行政法人教職員支援機構主催の学校安全指導者養成研修に参加した中核教員が、研修内容やモデル校での取組をにかほ市校長会で情報発信した。

象潟中学校教諭 奥山 晶太 氏
による実践発表



研修会の様子



地域連携安全・安心推進事業 安全教育実践報告



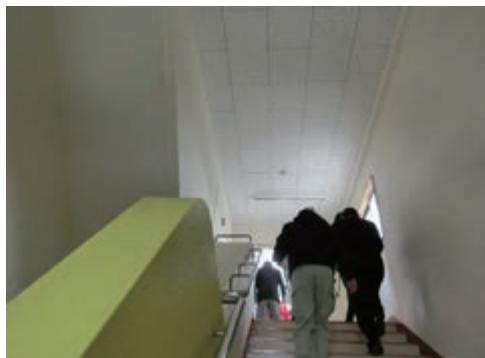
にかほ市立象潟小学校

安全教育中核教員 大須賀 修

令和4年度 象潟小学校の取組

- ▶ 教職員避難訓練（職員の共通理解を図るために）
- ▶ 1年鉄道安全教室（JRとの連携）
- ▶ 避難訓練①・消火訓練（地震→火災想定 にかほ消防署との連携）
- ▶ 6年スマホ安全教室（NTT docomoとの連携）
- ▶ 3年自転車ルール教室・4年自転車技能教室
（にかほ幹部交番との連携）
- ▶ 着衣水泳（にかほ消防署との連携）
- ▶ 6年地震体験学習（学習への必要感を にかほ消防署との連携）
- ▶ 避難訓練②（地震→停電→津波想定）
- ▶ 6年逃げ地図づくり（地域・中学校との連携）
- ▶ 引渡し訓練（3小学校統合後初の試み 保護者との連携）
- ▶ 6年学習発表会での発表（学んだことを他学年・地域へ）

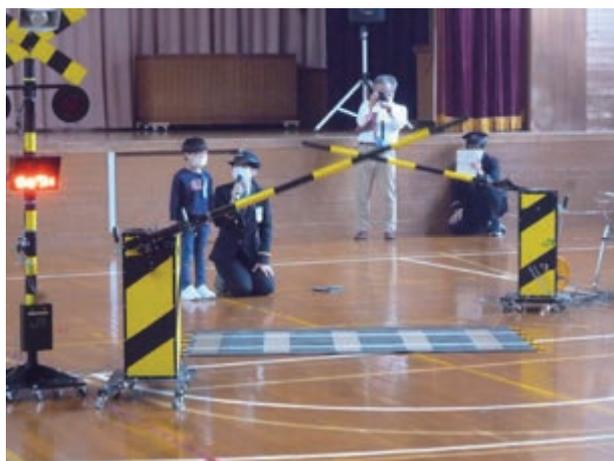
教職員避難訓練 4 / 4 (月)



職員の共通理解を図るために

1年鉄道安全教室

4 / 25 (月)



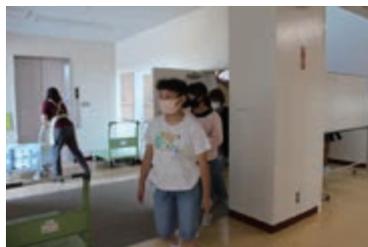
J Rとの連携

避難訓練①・消火訓練 5/25(水)

(地震→火災想定)



煙をたいて



実際に防火戸を使って避難



消火訓練の様子

にかほ消防署との連携

6年スマホ安全教室 6/7(火)



オンラインによる
NTT docomoとの連携

3年自転車ルール教室・4年自転車技能教室
6/17(金) 6/23(木)



にかほ幹部交番との連携

着衣水泳 9/5(月)、6(火)



にかほ消防署との連携
「浮いて待て」

6年地震体験学習 9/30(金)



にかほ消防署との連携
この後の学習への必要感

避難訓練② (地震→停電→津波想定) 10/11(火)



ハンドマイクによる情報伝達
校舎内待機

6年ローカル防災クリエイターとの逃げ地図づくり 10/17(月)



地域・中学校との連携

引渡し訓練 10/25(火)



保護者との連携

- お便りやメール配信による引渡し方法の周知
- 入念な打ち合わせによる混乱しない動線づくり
- 引渡しカードの活用

6年学習発表会での発表 11/3（木）



学んだことを他学年・地域へ

成果と課題

（○ 成果 △ 課題）

○停電想定避難訓練や引渡し訓練など、実際の災害により近い形で訓練を行ったことにより、児童・職員・保護者がそれぞれの動きを確認することができた。また、課題が明確となり、来年度へ向けて改善していく足掛かりにすることができた。

○警察、消防、JR、中学校、ローカル防災クリエイターなど、地域の様々な機関と連携し、学校安全に関する取組を行ってきたことで、児童・職員の安全に対する意識を高めることができた。

△新型コロナウイルスの影響により、地域と連携しての避難訓練ができなかった。実際に大災害が起こった場合、避難所開設と児童の引渡しを同時進行させていかなければならないケースも予想される。けが人が出た場合などとも合わせて、より実際の災害を想定した訓練を行っていく必要がある。

△学校安全に関する様々な取組を行ってきたが、どの活動をどの時期に行うことが効果的か考え、スケジュールを見直していく必要がある。

地域連携安全・安心推進事業 防災教育実践報告

にかほ市立象潟中学校
安全教育中核教員 奥山晶太

象潟中学校の取組

- ・避難訓練①(地震⇒津波を想定して)
- ・避難訓練②(不審者対応を想定して)
- ・教職員研修会(ローカル防災クリエイター 齊藤亜希さんから学ぶ)
- ・防災学習(中学1・2年生)
- ・実践発表(学校祭で地域に広げるために)
- ・PTA講演会(秋田地方気象台 戸堀土砂災害気象官から学ぶ)
- ・大笠中学校との交流(実践発表を他県に広げる)
- ・逃げ地図づくり(象潟小6年生と中学3年生が連携して)
- ・救命救急講習(中学2年生)
- ・避難訓練③(火災を想定して...より実践的な訓練を目指して)

津波を想定した避難訓練 5/13(金)



不審者対応を想定した避難訓練 6/7(火)



小中合同研修会 8/23(火)



防災学習(1・2年生) 8/30(火) 9/1(木)



学校祭実践発表 10/1(土)



PTA講演会(大雨・台風...万が一に備えて) 10/5(水)



オンライン交流会（南さつま市立大笠中学校 との交流） 10/11（火）



逃げ地図づくり 10/17（月）



より実践的な避難訓練をめざして・・・ 火災を想定した避難訓練 10/31(月)



しゃべらないのを徹底した方がいい (4)
 もう少し静かに歩く (2)
 外ズックに履き替えるときにガヤガヤしていた (2)
 並ぶときはすばやく並ぶ (2)
 最初に並ぶときに一言もしゃべらない
 並び方が分からなくて混乱している人がいた
 友だちと2列に並んでるときに話してしまった
 うるさかった
 話さないですばやく避難できるように
 いっしょに行動しない
 道路の方に広がっていた
 急いでなくて詰まっていた
 他の人が来るのを待っていた
 ふざけないで歩いた方がいい
 制服を気にして動いていない人がいた
 落ち着いて冷静に行動する
 「おかしも」や「にふだ」を意識する

具体的・建設的に

避難の時に私語が多かった
 しゃべらずに避難してルートを確認する
 校長先生が言っていたとおり、自分も私語が多かったので直したい
 私語をなくす
 外に出る時に避難した
 逃げる時詰まって出にくかった
 避難する時、密集して行動しづらかった
 人が密集して、教室のドアから逃げる時に逃げにくかった
 出口で詰まらないようにしたい
 出口が密集してしまった
 1階の1A、1B等の出口が狭く、出づらい
 トイレの方において、放送が聞こえにくかったから呼びかけなどもしてほしい
 放送を流す時はできれば非常ベルを止めて流して欲しい。あまり聞こえなかったからどこから出ればいいか迷った
 非常口から逃げるということを考えていなかった。非常口の位置を正確に知りたい
 避難ルートをもっと確認すればよかった
 外に出れるところに避難の時のやつを置く
 火災場所が分からなかった
 室内にいる時は風向きが分からない
 整列の時すばやく行動する
 いつ起こるか分からないから落ち着いて行動ができなかった

成果と課題 (○…成果 ▲…課題)

- 東日本大震災以降、防災意識に風化傾向が見られていたが、知識面も行動面もアップデートすることができた。
- 生徒も教職員が避難訓練で、「もっと実践的に」「本番を意識するには」という視点を強く意識しながら考えたり、指導したりするようになった。(アンケート記述の変化)
- ▲定期的に校内外の避難経路を整備しておく必要がある。(事前に確認すると草が生い茂り、避難できなくなっていた。防災課・地域との連携を強化する必要がある…)
- ▲より実践的な避難訓練になるには、PDCAサイクルを活用し、毎回アップデートしていく必要がある(生徒自らが考え判断し避難行動が適切にできるまで…)



令和4年度文部科学省委託
学校安全総合支援事業
「地域連携安全・安心推進事業」実践事例集

令和5年2月発行 秋田県教育委員会

〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号
電話 018-860-5204 FAX 018-860-5207



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます